

[書評]

「人間科学のための混合研究法」書評

松田正己

研究方法の選択は、研究者にとって大切な事項であるが、その学習環境は一様ではない。自覚はしていないが、時代の影響を受けている。例えば、評者の場合、1970年代、大学の学部時代にコンピューターが教育に導入され出した時期に教育を受け、フォートランでプログラムを組むことから始まり、多変量解析による量的な研究方法から研究を開始した。当時から論議されていた量的研究の限界を本書では、コンテキストの理解が弱い、参加者の声、解釈の議論がないと明確に示しており、質的研究の重要性と限界を、限られた人数からの一般化の課題として説いている。1980年代、新しい理論が質的データをコード化して扱うことを可能（グランデッド・セオリー等）にし、1990年代、国際保健ではDALY（障害調整生命年）という、死亡率という量的方法に、障害という質を経済学的な重みづけにより取り込む方法が開発され、新しい展望を切り開いた。これらの研究方法は画期的ではあったが、専門的な訓練や、長期的、大規模研究という特性（本書では多元的研究と表現）を持ち、誰もができる研究方法とは言い難い。

その後、評者が看護系大学で地域看護・国際保健を担当していたおり、大学院の指導にあたり、研究を量的か質的かに分けてしまう傾向に疑問を持っていた。両方の研究は本来、統合的、補完的であると思う。本書では、量と質の研究を分けることが、探求アプローチや共同作業を狭めると明快に説明している。本書は、1章、2章でそのような1970年代から90年代に至る歴史的背景を世界的視野で説明した後、3章以降で、2000年代に登場した、量と質の混合研究法（大学院生で実施可能な单元的な小規模研究）を分かりやすく解説している。調査研究のデザイン（4章）ではトライアングレーションという社会学の三角測量が語られ、データ収集（6章）、分析（7章）、執筆・評価（8章）という研究プロセスに沿って丁寧な記述がなされ、具体的な質問への回答（9章）に加え、専門的な研究の訳が4つ（青年の薬物研究、臨床試験の患者理解・社会心理、台湾、オーストラリアの教室環境・教育、組織の同化探求・コミュニケーション）添付されている。看護学、健康科学、カウンセリング臨床心理学、公衆衛生学などの諸分野では既に先行研究もあり、また、米国国立衛生研究所（NIH）でも混合研究法を推奨している（9章）という。

本書の現代的意義は、東日本大震災に関連している。米国南部のハリケーン・カトリーナ被害を語る時、言葉も数字もどちらもが必要となる。言葉（質）か数字（量）のどちらかだけで話すよりも、両方を使用して被害の全体像を表すのが自然である。本書の訳者である大谷先生の著書『事例研究の革新的方法—阪神大震災被災高齢者の五年と高齢化社会の未来像』（九州大学出版会、2006年）と併せて本書の意義を考えたい。東日本大震災の被害者の生の声をまとめることに本書は役に立つであろうし、また、わが国が初めて体験している福島原発による健康被害を客観的に捉えることと、被害者を支援する活動を結びつけていく必要性等を考えたとき、本書の示している量と質の混合研究法は、実践的、かつ実用的な方法として大いに参考となろう。

*「人間科学のための混合研究法」



連絡先：〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地
 東京家政学院大学現代生活学部健康栄養学科教授（公衆衛生学）
 TEL：03-3262-2831
 E-mail：matsuda@kasei-gakuin.ac.jp

著者 J.W クレスウェル、V.L. プラノクラーク (大谷順子 訳)

出版社 北大路書房

313 ページ、3300 円 + 税

日本国際保健医療学会 学会雑誌 「国際保健医療」 第26巻第2号

目 次

[特集] 第25回日本国際保健医療学会ワークショップ

ワークショップ「国際保健医療学分野の研究手法—数値と記述のサイエンス」を企画して

喜 多 悦 子65

国際保健医療学分野の研究手法—数値と記述のサイエンス

青 山 温 子67

二次データに基づいて進める研究：時系列解析—地球温暖化による健康影響の予測に向けて—

橋 爪 真 弘69

国際保健研究における多重レベル分析：その有用性と基礎

近 藤 尚 己75

国際保健研究における医療人類学のアプローチ—観察と記述に基づいた質的研究

松 山 章 子81

途上国での世帯抽出調査：標本抽出デザインを勘案した代表値の推定・検定の手法

村 上 仁93

現場からの発信手段としての混合研究法—量的アプローチと質的アプローチの併用

樋 口 倫 代107

資 料

タンザニア ムワナニャマラ病院における分娩介助ケアの質

藤田和佳子、大橋一友、中園直樹119

書 評

「人間科学のための混合研究法」書評

松 田 正 己131

記 事

2011年度第52回日本熱帯医学会 第26回日本国際保健医療学会合同大会のお知らせ133

投稿規定（日本語、英語）134

編集後記141

CONTENTS

Special articles of the Workshop in The 25th Annual Meeting of the Japan Association for International Health

Information:

Quality of midwifery care during labor in Mwananyamala Hospital, Tanzania
Wakako FUJITA, Kazutomo OHASHI and Naoki NAKAZONO 119

Book review:

Masami MATSUDA 131

Instructions to Authors 134

Editor's Note 141



**Japan Association for International Health
(Nippon Kokusai Hoken Iryo Gakkai)**

c/o Department of International Community Health
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo
7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033, JAPAN
TEL/FAX: +81-3-5841-3479